

2026年度事業計画

2026年度、公益財団法人泉屋博古館は以下の各事業を行います。

1. 保存公開事業

(1) 展覧会

泉屋博古館(京都)は、以下のとおり青銅器展および企画展あわせて4件を行う。

1) 青銅器館

展覧会名	期間・日数
「中国青銅器の時代」 はじめて青銅器を観る来館者でも概要を一望できる構成とし、最新のデジタルテクノロジーも駆使して分かりやすく展示する。 第1室 名品大集合 第2室 青銅器の種類と用途 第3室 文様・モチーフの謎 特集展示「 金文 」 第4室 東アジアへの広がり	4/4～7/31 9/5～12/20 (192日)
開館日数計	192日

2) 京都企画展

展覧会名	期間・日数
住友財団文化財維持・修復事業助成の成果特別展 「文化財よ、永遠に2026 ー次代につなぐ技とひと」 住友財団の文化財維持・修復事業助成35周年を記念して、過去に助成を受けて修理された美術工芸、歴史資料の展示を通じ、文化財修理の意義を伝える。作品は近畿地方中心に選定。	I期 4/4～5/6 II期 5/9～31 III期 6/2～28 (72日)
寛永行幸400年記念特別展「 寛永行幸 ー花の都の文化人ー 」(仮) 後水尾天皇が徳川家の二条城に行幸した盛事とそれを契機とした寛永文化を紹介。	9/5～10/18 (38日)
「没後100年記念 住友春翠 ー仕合わせの住友近代美術コレクション」 住友春翠と同時代を生きる作り手たちとの直接的な交流の実相を収蔵品から紹介。(東京展から巡回)	10/31～12/20 (44日)
開館日数計	154日

京都展覧会費	52,200千円
--------	----------

泉屋博古館東京は、下表のとおり企画展4展を開催する。また住友財団の助成により修復された文化財の展示を春季展にあわせて行う。

3) 東京企画展

展覧会名	期間・日数
特別展「生誕 151 年からの鹿子木孟郎 -不倒の油画道- 住友春翠の支援で渡欧し関西洋画界をリードした鹿子木孟郎の記念展。古典写実表現の精髓に迫る。(25年京都展から巡回)	1/17 ~4/5 (68日)
「ライトアップ木島櫻谷Ⅲ -おうこくの色をさがしに 四季連作屏風と近代花鳥画の世界」 毎年恒例の木島櫻谷四季屏風を公開。あわせてその色彩表現を読み解く。 住友財団展併催：文化財維持修復助成作品	4/25~7/5 (62日)
「没後 100 年記念 住友春翠 -仕合わせの住友近代美術コレクション」 住友春翠と同時代を生きた作り手たちとの直接的な交流の実相を収蔵品から紹介。	8/29~10/12 (39日)
特別展「唐物誕生 -茶の湯デザインの源流を探る」 茶道具「唐物」の源流を殷周青銅器に求め、東アジア文化史の視点から茶の湯デザインをとらえなおす。	11/3~12/13 (36日)
開館日数計	205日

東京展覧会費	44,000 千円
展覧会費合計	96,200 千円

(2) 収集事業

当館コレクション充実のため、当館収蔵品と関連のある作品収集を継続する。近世末から近代にかけての絵画、工芸を対象とし、購入、寄託、受贈の検討を進める。本年度は、尾竹竹坡の日本画 1 件の購入を実施したい。

(予算 2,000 千円)

(3) 修復事業

多くの当館収蔵品に修復の必要性が生じているなか、展示の機会を見据えて特に緊急性の高い案件を中心に作成した計画に従い、本年度は以下の修復及び調査を行う。(予算合計 6,776 千円)

- ・洋画 2 件 (計 2,340 千円)
 - 小林真二「夏の浜辺」の修復 (予算 740 千円)
 - 矢崎千代二「草刈」の修復 (予算 1,600 千円)
- ・日本絵画 1 件
 - 重要文化財「佐竹本三十六歌仙絵切 源信明」2 カ年計画の修復竣工。
 修理報告書・動画コンテンツも 2026 年 3 月完成。
 (予算 2,336 千円 総費用 6,837 千円、国庫・住友財団助成)
- ・茶道具 (「芦葉達磨香合」付属品) の修復 (予算 500 千円)
- ・青銅器 1 件 (予算 500 千円)
- ・その他小修繕 (予算 1,100 千円)

(4) 館蔵品管理事業

① ポジデータのスキヤンや収蔵品の新規撮影など、2024年度に導入した館蔵品データベースの充実を図る。またデータベースの公開に向けた議論を継続する。(3~5カ年計画として)

② 2023年度より泉屋博古館(京都)で実施中の蔵書のデジタル化を本年も継続。その上で、上記①の図書台帳への内容反映を目指す。

③ 泉屋博古館(京都)改修工事にあたり、館外に移転していた一部の館蔵品のうち、他館預け分(7月目処)、東京館預け分(年末目処)を館内の受入態勢鑑みながら段階的に新第二収蔵庫に搬入、庫内整備を進める。

2. 調査研究事業

(1) 館蔵品基礎調査研究

館活動の根幹となる館蔵品の基本的調査研究を実施する。

テーマ	期間
「茶道具の調査研究」 (森下) 館蔵の茶道具について、新収品を中心に、①付属品の再調査、②購入記録並びに茶会記との照合を行い、江戸期から大正期に至る茶道具のコレクション形成史をまとめる。	2020年度より継続
「館蔵の洋食器を中心とした近代洋食器研究」 (森下) 明治時代以降、洋食器文化の輸入により日本各地で洋食器が生産されるようになった。住友コレクションには住友家の邸宅で使用された最初期のディナーセットがあり、資料としても貴重である。当時の国内における洋食器の供給ならびに受容者について調査を実施。2027年に展覧会にて成果報告。	2021年度より5年間 (継続)
「館蔵日本中国絵画の調査研究」 (実方) 館蔵日本中国絵画に関して、調査データおよび収集関連資料の一元化をはかる。特に寛永期を中心とする17世紀に制作あるいは伝来した作品につき調査を進める。	2025年度より2年間
「館蔵工芸品の基礎調査」 (竹嶋) 新収蔵庫への工芸作品の移動を実施する。本年度は作品の基本データを取得し、データベースの情報を拡充する。	2025年度より3年間
「住友春翠に関する基礎資料収集」 (竹嶋) 住友春翠に関する基礎的資料を、将来的に展示に供することも視野に入れ、収集につとめる。二年度は、各地で開催された博覧会における住友春翠の事績を拾い上げる。	2025年度より2年間
「館蔵洋画の調査研究」 (野地) 館蔵洋画・彫刻に関しては、河久保正名や仙波欣平など、優品が収蔵されながら見落とされてきた作家・作品が散見される。また岸田劉生など近年の研究成果を踏まえ多視点からの見直しを推進する。	2020年度より8年間

<p>「館蔵日本画及び洋画の基礎研究」（椎野）</p> <p>館蔵の日本画及び洋画に関して、作家研究を推進する。特に春翠と交流をもった日本画家に注目し、近代における席画文化の諸相とその意義を明らかにする。</p>	2020年度より8年間
<p>「館蔵染織品の調査研究」（田所）</p> <p>館蔵の染織品に関する調査研究を進める。特に用いられている染織技法の確認・整理や、収蔵経緯の詳細解明、また住友家でどのように使用されて来たのかといった点について、多角的な視点から調査研究を行う。</p>	2024年度より5年間
<p>「館蔵の近代南画を中心とした調査研究」（田所）</p> <p>館蔵の日本画コレクションのうち、特に南画作品を中心に、調査研究を行う。館蔵品のみならず、同画家の館外作品の調査も積極的に行い、近代南画の在り方や画家同士の交流のようすなどを明らかにする。その成果は展覧会で公開を予定。</p>	2024年度より3年間

(2) 専門研究

館蔵品に関連する分野において、専門的研究を行い、その成果について、学会発表、紀要などの学術雑誌や図録での公表を行う。

テーマ	期間
<p>「中国先秦時期の社会と文化」（小南）</p> <p>中国先秦時期（主として二里頭文化時代から秦漢帝國の成立まで）の社会制度や思想文化について、出土文物と文献資料とを相互に参照しつつ、中国的特質を具えた社会がどのように形成されたのかについて検討する。</p>	2022年度より5年間
<p>「中国近世の文芸と民衆信仰」（小南）</p> <p>中国近世の民衆文芸について、文献資料と実地調査とにもとづき、民衆的な信仰と生活倫理の関わりについて探求する。現在は主として、盂蘭盆儀礼と目連による母親の地獄からの救済の物語りを中心にして、宗教儀礼と語り物文芸との関わりを調査、分析している。</p>	2017年度より3年間(科研費) 2020年度より4年間(科研費) 2024年度より3年間(科研費)
<p>「日本における中国古代青銅器受容・鑑賞史の再構築」 （山本）</p> <p>日本に所蔵される殷周青銅器の調査、および収集過程の分析をおこない、各作品を現在の研究水準から再評価するとともに、コレクション形成史にも新たな光を当てることをめざす。</p>	2026年度より3年間 （鹿島美術財団インターミディエイト）

(3) 他研究機関との共同調査研究

館蔵品関連分野の研究を多角的に推進するため、他研究機関との共同調査を実施する。

テーマ	期間
<p>「木島櫻谷の調査研究」（実方） 今年度は櫻谷文庫所蔵資料のうち、マクリ調査を再開、また継続中の櫻谷宛書簡類整理のまとめをめざす。また2027年展覧会を視野に師弟に関する資料・作例調査を幅広く行う。</p>	2009年度より継続
<p>「二条城行幸図屏風と寛永文化の調査研究」（実方） 屏風の様式研究に加え、武家公家儀礼や市井の衣・食・住の文化など屏風に描かれた内容を各分野の専門家と共同分析し、行幸を契機に花開いた寛永文化を読み解く。2026年行幸400年記念展に向け進める。</p>	2025年度より2年間
<p>「中国古代青銅器製作技術の研究」（山本・廣川） 当館所蔵青銅器及び台湾中央研究院歴史語言研究所所蔵青銅器および鋳型を調査対象として、殷代から戦国時代にかけての青銅彝器製作技術の解明を目的とした研究を、歴史語言研究所、芦屋釜の里と共同で実施する。26年度は、正式報告書刊行（28年度予定）を目指し、成果の整理をおこなう。</p>	2026年度より3年間
<p>「中国青銅鏡の高精度三次元計測データの解析」（廣川） 富山大学芸術学部と共同で実施している青銅鏡の三次元計測データ取得について、未計測資料の計測を実施する。</p>	2025年度より5年間（予定） 富山大学研究代表科研課題の分担研究
<p>「日本茶道文化史における中国金工品の受容と展開」 （山本） 日本中近世の茶道具のなかには、その淵源を中国青銅器にまで辿れるものが少なくない。これまで茶道文化史において正当な位置づけがなされていない金工品を中心に実見調査等を行い、唐物受容の新たな一側面を探っていく。茶道資料館・芦屋釜の里との共同調査研究。</p>	2020年度より7年間 研究助成金申請検討中（2021年度より三者協定締結）
<p>「近代染織史の基礎資料研究」（森下・田所） 館蔵の染織作品を基本資料として、近代の染織品における様式変遷ならびに技法を比較する。また、染織作品を中心とする工芸作品の保存修復についても調査を実施。東京文化財研究所無形文化遺産部と共同研究を行う。</p>	2020年度より6年間（2015年より継続）
<p>「展覧会芸術研究」（椎野） 近代日本画における主題選択や表現様式を変容させた展覧会の制度に注目し、同時代資料から「展覧会芸術」という言葉の使用範囲と用法を探る。本年は春翠も名誉会員を務めた巽画会に注目し、その中心作家である高橋廣湖のその活動内容を精査する。</p>	2020年度より8年間 文化庁文化財第一課中野氏と共同研究

<p>「周王の諸国統治の方策とその展開の形態——新出金文を手がかりとして」（山本）</p> <p>近年新たに発見されている金文史料に着目し、周王朝と諸侯国との関係性の変化を、長期的視点から検討する研究課題。</p>	<p>2024年度より3年間 東京学芸大学代表課題の分担研究</p>
<p>「吉田ふじを基礎研究」（椎野・田所）</p> <p>洋画家・吉田博の妻であり、女流洋画家の先駆けでもある吉田ふじをについて、遺族のもとに遺された基礎資料の整理を行い、画業とその史的位置について明らかにする。</p>	<p>2023年度より5年間 東京文化財研究所の研究者と合同研究</p>

3. 教育・広報普及活動

教育機関への協力事業として大学の非常勤講師出講および団体見学受入等を行う。さらに社会教育事業の一環としてミュージアムボランティア養成研修を実施する。また展覧会や研究活動をより多くの方に理解して頂くために、関連書籍の刊行および各種講座、講演会、シンポジウム、ワークショップなどを開催する。

内容
<p>(1) SNS、HPを活用した広報活動</p> <p>Facebook・X（旧Twitter）・Instagramの各SNSの特長を活かし、イベント案内等をスピーディーに告知し、展覧会や美術館の魅力をビジュアルで配信する。またウェブサイトも活用し、各種情報を早期に発信する。</p>
<p>(2) 講演会・トークイベントの開催</p> <p>【京都】青銅器展では講演会を開催するほか上期・下期ともに学芸員によるギャラリートークを複数回開催する。展覧会毎に学芸員がスライドトークを行うほか、テーマに即したイベントを計画中。</p> <p>【東京】展覧会関連の講演会・トークイベントを開催するほか、連続講座を継続開催する。また学芸員によるスライドトークを展覧会毎に2～4回程度開催する。</p>
<p>(3) その他のイベントの開催</p> <p>【京都】ワークショップ、ナイトミュージアム等各種イベントを企画し開催する。</p> <p>【東京】ワークショップ、コンサート等、各種イベントを企画し、開催する。</p>
<p>(4) 青銅器解説ボランティアの養成</p> <p>【京都】ボランティア解説員のレベル維持・研鑽のため、研修を年2回程度開催する。状況に応じて新規解説員を募集する。</p>
<p>(5) 青銅器鑑賞コンテンツの制作継続</p> <p>【京都】昨年に引き続き、刷新された青銅器展示を紹介するためのVRコンテンツを制作継続。完成後は公式サイトで公開の予定。</p>
<p>(6) 大学への出講</p> <p>【東京】野地（成城大学、通期） 森下（学習院大学、通期） 椎野（学習院大学、半期）</p>

(7) 近隣美術館等との連携

【京都】京都市内博物館施設連絡協議会および「ぐるっとパス関西 2026」への継続加盟。また野村美術館との相互割引「京都東山 美術館さんぽ」は毎年秋季展で実施することで合意している。寛永展で京都府下の複数館と企画・広報で連携。

【東京】「港区ミュージアムネットワーク」および「ぐるっとパス 2026」への継続加盟。ARK Hills Music Week への参加。近隣館との年間パスポートや展覧会での相互割引を実施。

(8) 紀要・図録等の発行

- ①『泉屋博古館紀要』第42巻 500部
- ②『住友春翠（近代編）』2,000部（予定）
- ③『住友春翠（改訂版）』2,000部（予定）
- ④『泉屋博古 茶道具（再版）』1,500部（予定）
- ⑤『寛永行幸展』1,500部（予定）
- ⑥『唐物誕生』（制作・買取予定）
- ⑦『泉屋博古館年報 2025』200部（外部制作委託）
- ⑧展覧会図録『文化財よ、永遠に 2026—次代につなぐ技とひと』2,000部（予定）

(9) ミュージアムグッズの開発・制作

【京都・東京】展覧会に合わせたグッズ開発、絵はがきなどの定番グッズの追加製作によりミュージアムショップの品ぞろえの充実を図り、来館者サービスの向上に繋げる。

4. 施設への対応

項目	内容	予算(千円)
泉屋博古館 (京都)	改修工事期間に実施できなかった古い動力・分電盤の更新をおこなう。	10,000 (工事引当金)

以上